



# ふるさとに根ざした体験活動の実践

～一人一人のキャリア発達を目指して～

大館市立比内中学校 教諭 田村 環

## 1 はじめに

本校の学校教育目標は「郷土を愛し、明るくたくましく生きる生徒の育成」である。本校の生徒の特徴として、明るく素直な生徒が多く礼儀正しいあいさつができるという長所と、全体的に受け身な生徒が多く指示されたことは行動できるが、自ら積極的に発表したり表現することが難しいという短所が見られる。そこで、今年度の研究主題を「一人一人の主体的な活動を通して、確かな力を高める生徒の育成」と設定し、ふるさと・キャリア教育の充実を図るため総合の年間指導計画を見直し、一人一人のキャリア発達を促す活動を取り入れることとした。

## 2 活動の実際

### (1) 年間計画の見直し

- 昨年度の活動の反省点として、
  - ・キャリア体験が少ない。
  - ・ふるさと教育を意識した比内中独自の取り組みがない。
- ↓
- 今年度の新たな取り組みとして、
  - ・進路講演会の実施
  - ・勤労体験学習の実施(2年)
  - ・郷土料理体験学習の実施
  - ・ふるさとフォーラムの実施



### (2) 取り組みの実際

- ① 進路講演会 (6種類の職業人の話を聞いて、質問する。)
  - ・昨年はPTAの中から1名の方の講話を聞く形から、6種類の中から自分で聞いてみたい職業を選択し質問することによって、受け身からの脱却を図る取り組みとなった。生徒の感想からも各職業から「働くことの意義」を感じ取れていた。
- ② 勤労体験学習
  - ・大館ふるさと・キャリア教育のリストや保護者の職場や地域の職場などの中から、体験先を決めて1日中勤労体験を行った。生徒は働くことの基本的な姿勢や社会人になるまでに身に付けたい力が何かということを考えるきっかけになり、その後の学校生活の変容につながった。

### ③ 郷土料理学習会

- ・昨年までの「なべっこ」では班によって簡単な鍋が多く、郷土料理を作る班が少なかった。そこで、今年は学年ごとにメニューを決めて体験学習を行った。

1年生…道明寺と芋の子汁

2年生…中山そば

3年生…きりたんぼ



- ・各学年共に地元の食材や地元で伝わる料理を学び、ふるさとの伝統を引き継ごうとする意識が高まった。

### ④ ふるさとフォーラム

- ・「10年後のふるさとのために、中学生の私たちができること」というテーマのもと大館市の地域再生マネージャーなどアドバイザーをお招きして討論会を行った。

大館市の過疎化の現状と大館市の取り組みを学び、中学生から地域の活性化に貢献できることはないか？について考える良い機会となった。中学生がふるさとについて知らないことが多いという現状が浮き彫りになり、ふるさと教育の大切さを実感した。

## 3 成果と課題

### (1) 今年度の成果

- 各体験を実施する際に、本校の研究テーマである「生徒の主体性」を意識して行った。その結果徐々にではあるが、自分で動く生徒・自分で考えようとする生徒が育ってきている。
- キャリア発達能力が全く違う生徒に応じた支援を全職員で心がけることができた。
- さまざまな体験がその場限りでなく、1年を通してみると各学習がキャリアという線でつながるような事前・事後の指導ができた。
- 大館ふるさと・キャリア教育の志を生かした体験を取り入れることによって、以前よりもふるさとに対する意識が変化してきた。

### (2) 来年度に向けての課題

- 新しい行事を取り入れた分、多忙感が増してしまった。今後総合の時間配分を考えていかなければいけない。また、教科や特別活動・道徳などでやれることを考え、精選していく必要がある。
- 小中の連携を図り、小学校で身につけたキャリア能力を受けて、さらに中学校で身に付けたいキャリア能力を明確にしていく必要がある。
- 地元である比内町についてまだまだ知らない生徒が多い。ふるさとについて学んだり、考えたりする経験を今後も継続していく必要がある。